

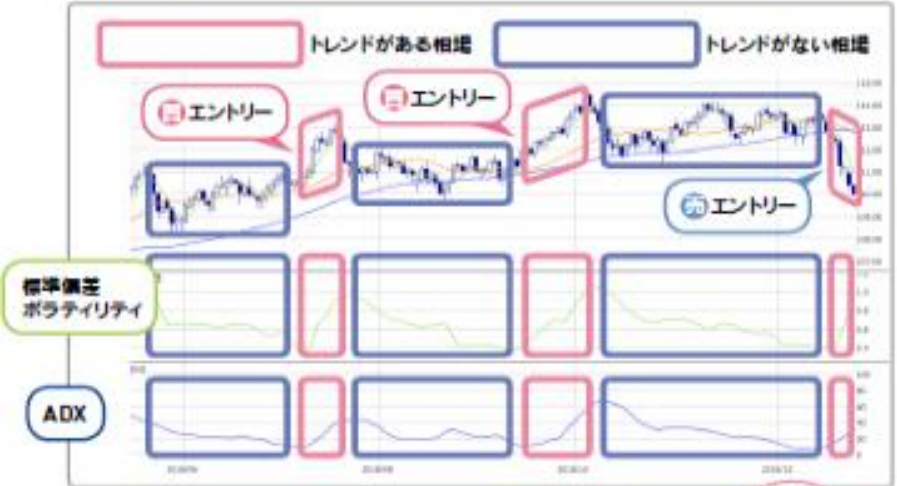
●トレンドの有無の見分け方

エントリー前に確認 トレンドの有無の見分け方

ずばりポイント 標準偏差ボラティリティとADXが両方とも上昇しているか確認!

トレンドの方向性がある相場とない相場

標準偏差ボラティリティとADXがどちらも上昇しているときは、相場に方向性があると考えられる。価格が上昇傾向ならば買い、下落傾向ならば売りでエントリーするのが順張りの方。



標準偏差ボラティリティとADXが同時に上昇している期間は、相場に方向性がある。
=トレンド相場

標準偏差ボラティリティとADXが並行のときや同時に下落しているとき、またはどちらかが上昇していない期間は、相場に方向性がない。
=保ち合い相場

トレンドが強いほど大きく動くかも

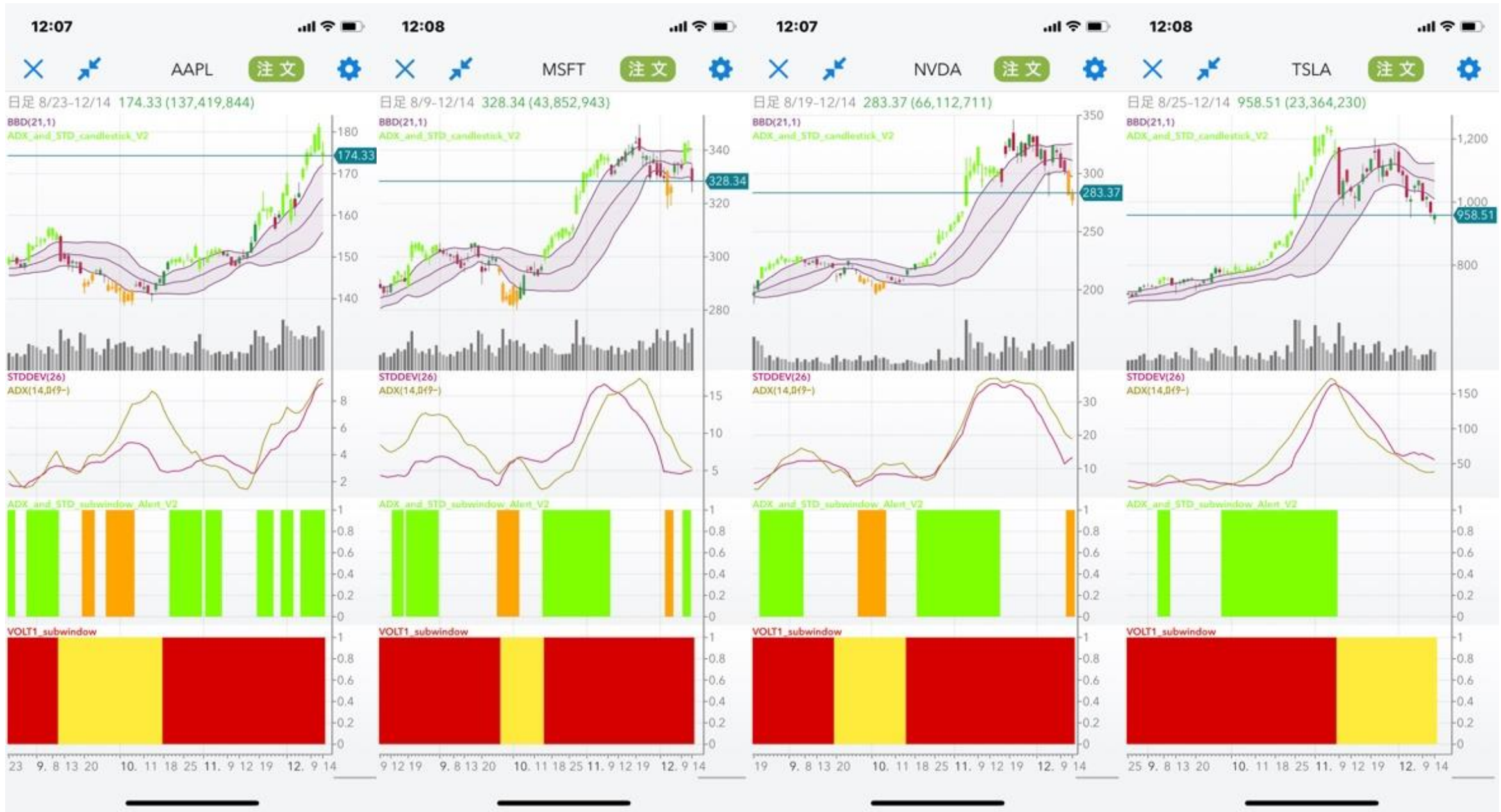


標準偏差が低い位置から上昇するときに、保ち合離れの合図

標準偏差がピークアウトすると、相場はランダムな乱高下相場（レンジ的な無秩序相場）となりやすい。

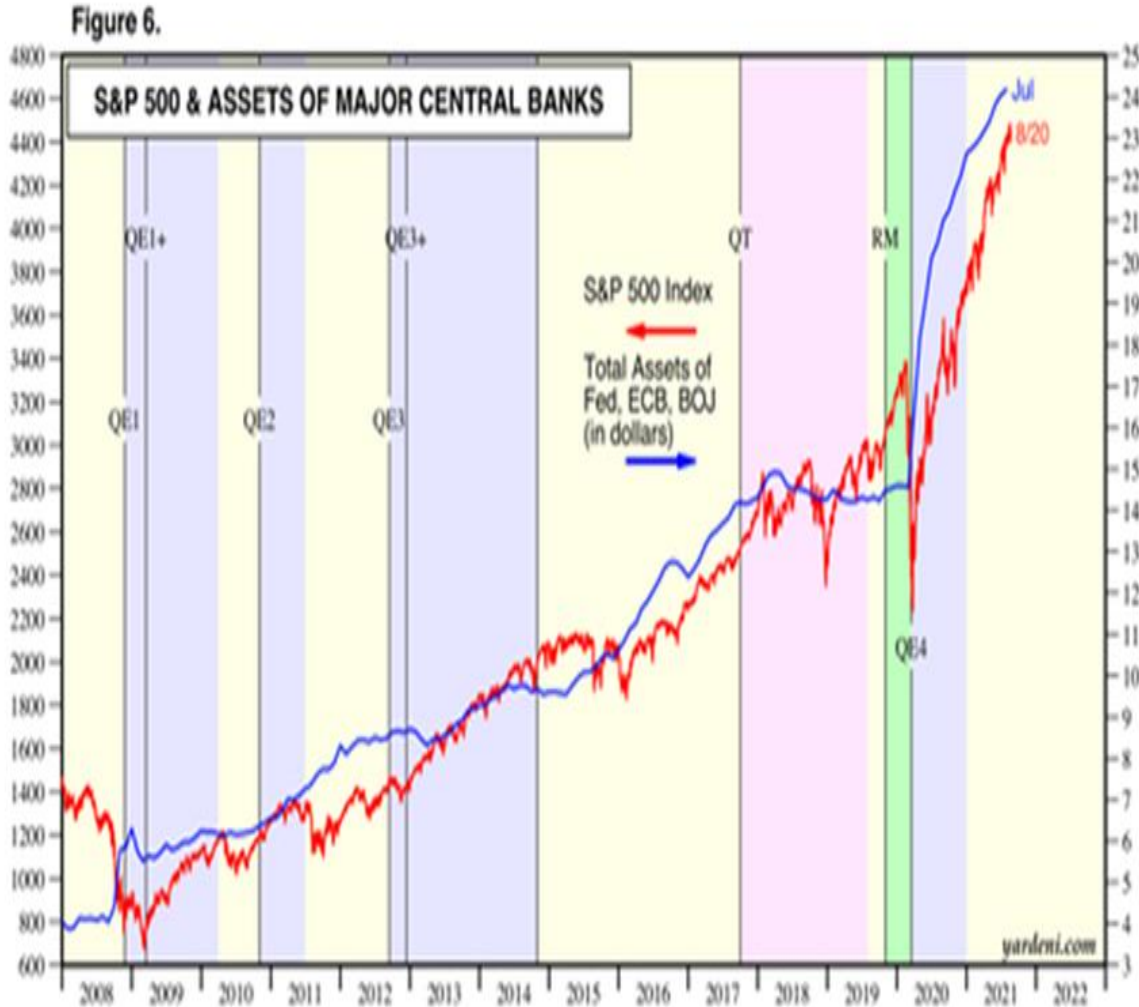
標準偏差
ADX
赤が買いトレンドシグナル・黄が売りトレンドシグナル

(赤↑ = 買いシグナル・黄↓ = 売りシグナル)
出所：楽天MT4・石原順インディケーター



出所：パンローリングカスタムチャート

それは実行中のプログラムであり、軌道上を走るだけだ



出所：ゼロヘッジ

すべての市場の下落は、FRB のバランスシートの縮小または一時停止と一致しているように見える。

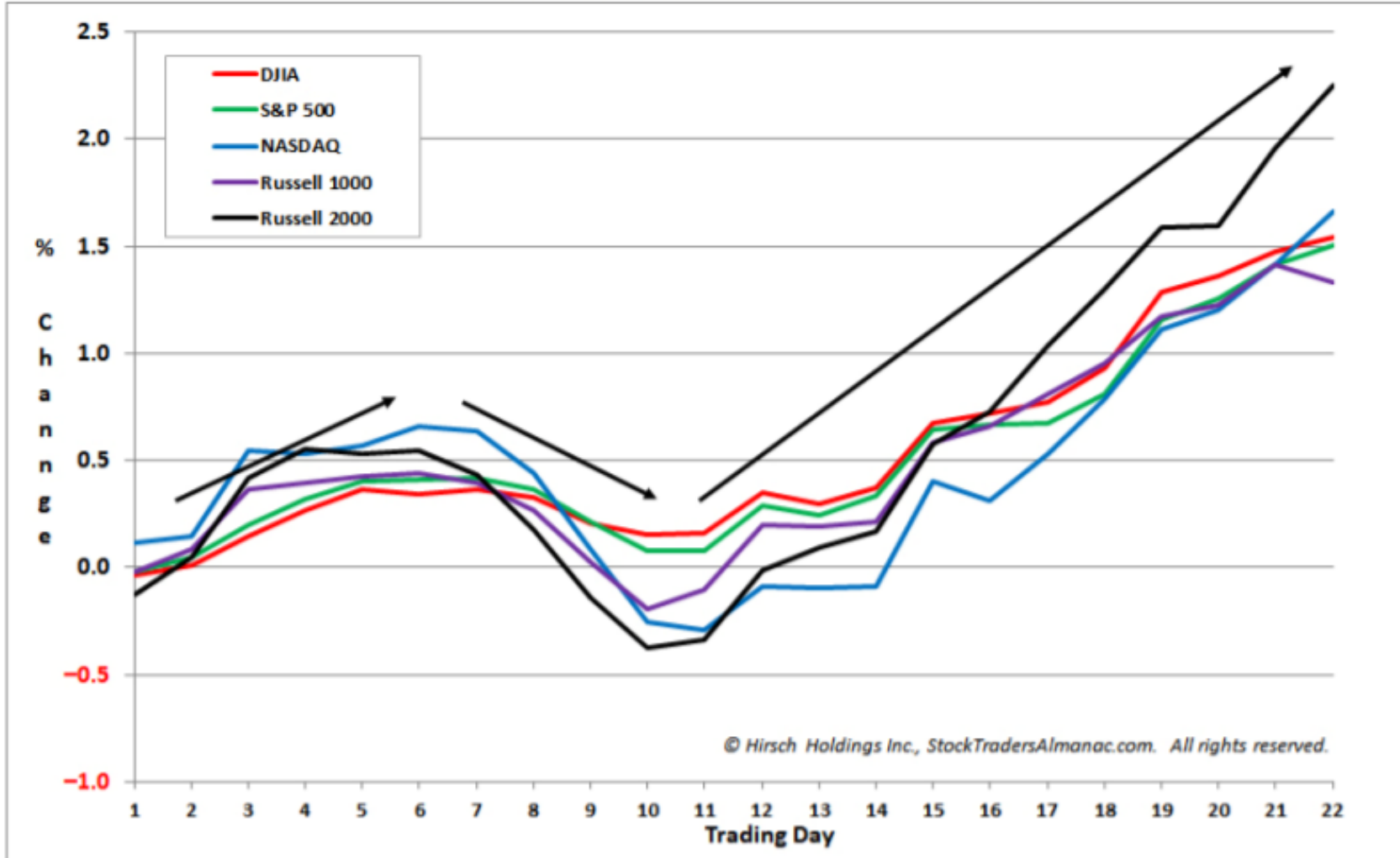
いや、何百万人もの個人投資家の判断によって動かされているはずの市場が、毎月同じことを繰り返しているのは市場ではない。それは実行中のプログラムであり、軌道上を走るだけだ。

中央銀行の介入によって資産価格が経済から切り離され、所有者層に有利になる範囲と期間には限界があるのか、それとも限界はないのか。もし限界がないのであれば、この列車は永遠に続き、富の不平等は拡大し続け、自由市場での価格発見や創造的破壊の概念は、もはや市場や経済とは無関係になってしまう。

限界があるとすれば、コントロールを失ったときには壊滅的な打撃を受け、より大きな平均への回帰が歴史的な崩壊をもたらすことになるだろう。

過去21年間の米国株市場の12月パフォーマンス（2000～2020）

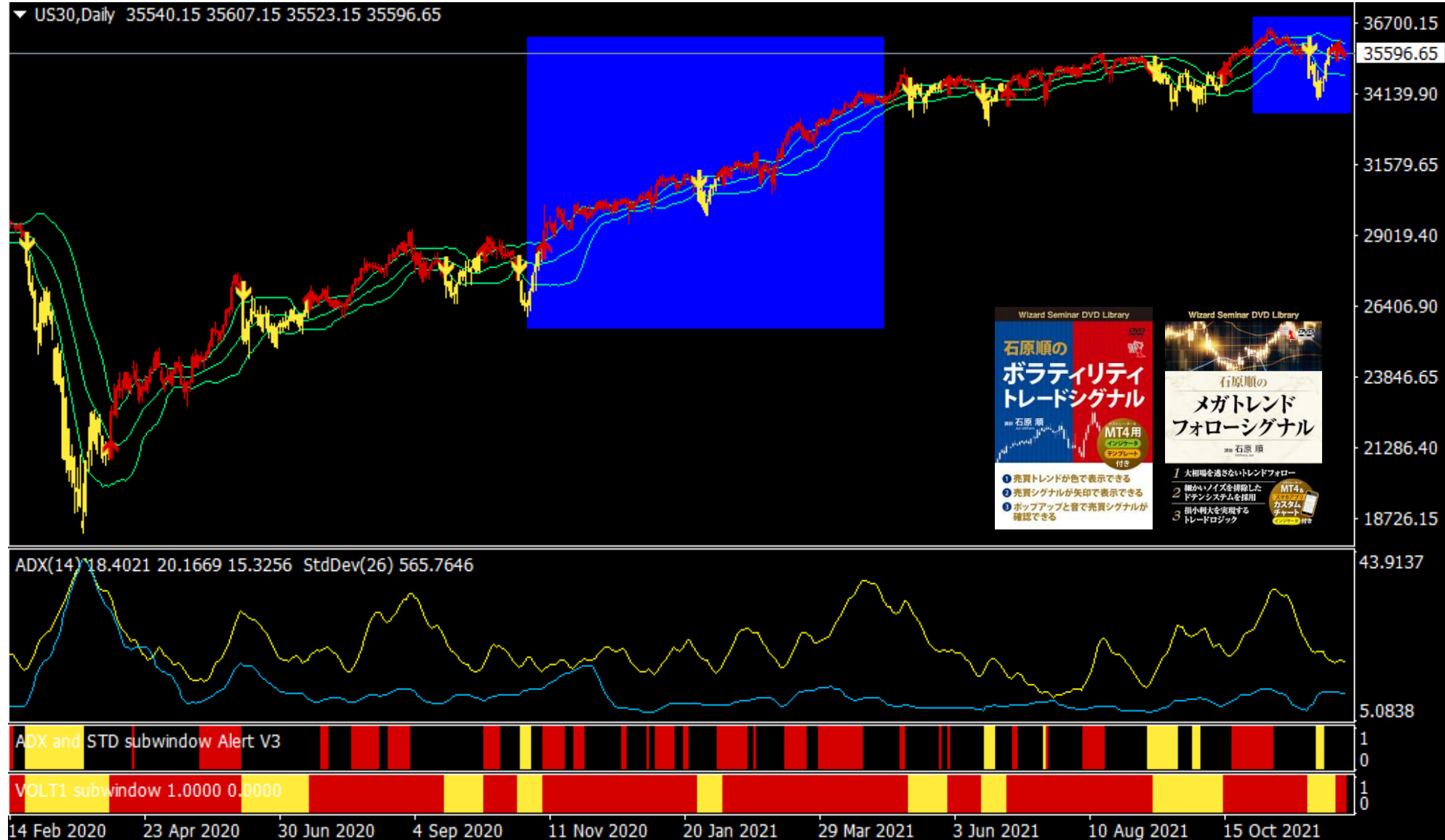
Recent 21-Year December Market Performance (2000-2020)



サンタクロース・ラリーは1972年に彼の父親エール・ハーシュが定義したもので、「1年の最後の5取引日と新年の最初の2取引日」を指す。この短い期間のラリーは、通常、S&P500で+1.3%程度の利益をもたらしている。サンタクロース・ラリーは年の最初のシーズナル指標である。サンタクロース・ラリーがなかった年は、弱気相場になり、年の後半に株価が大きく下落したりする傾向がある。

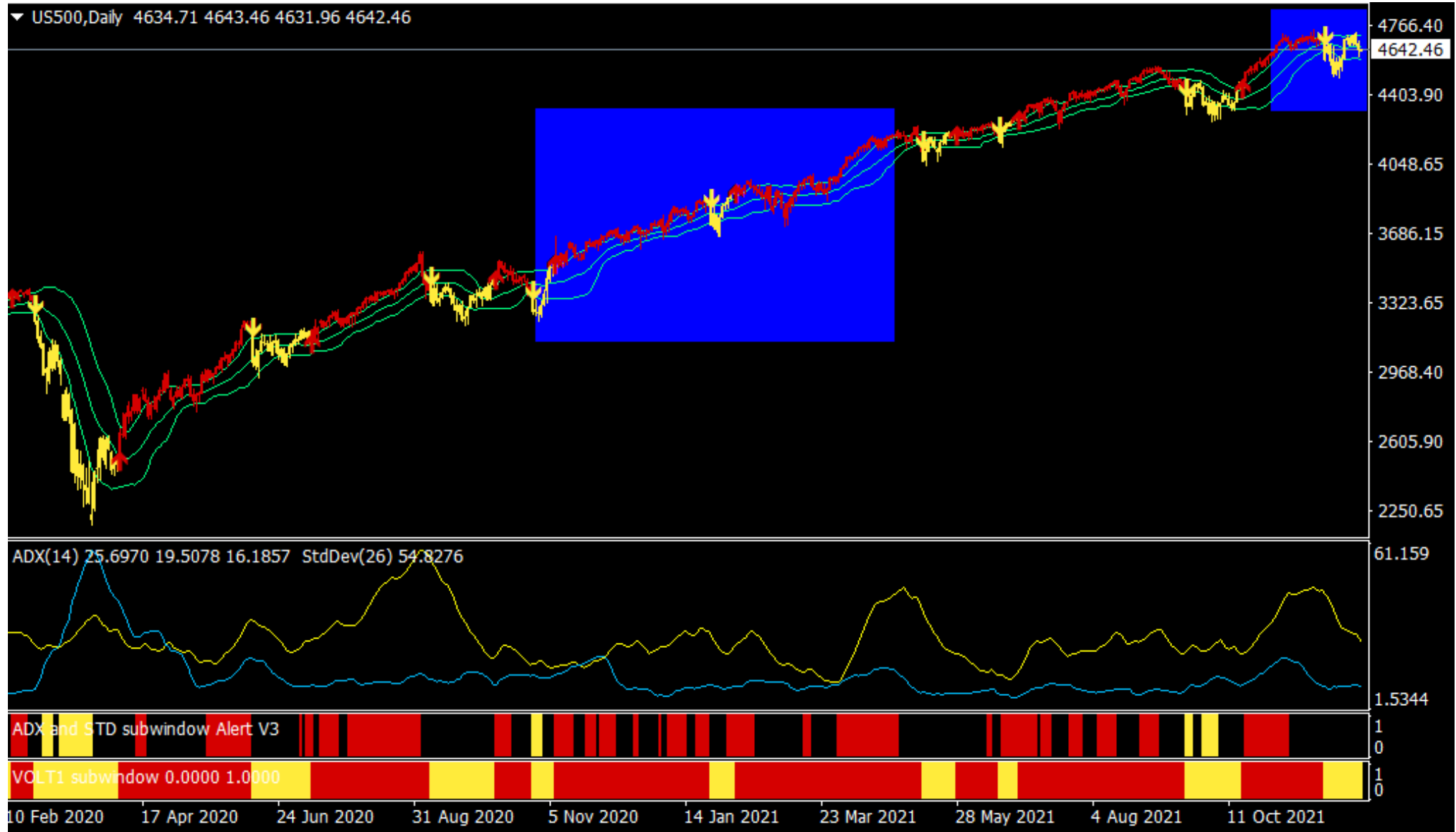
出所：トレーダーズアルマナック（パンローリング）

NYダウCFD (日足)



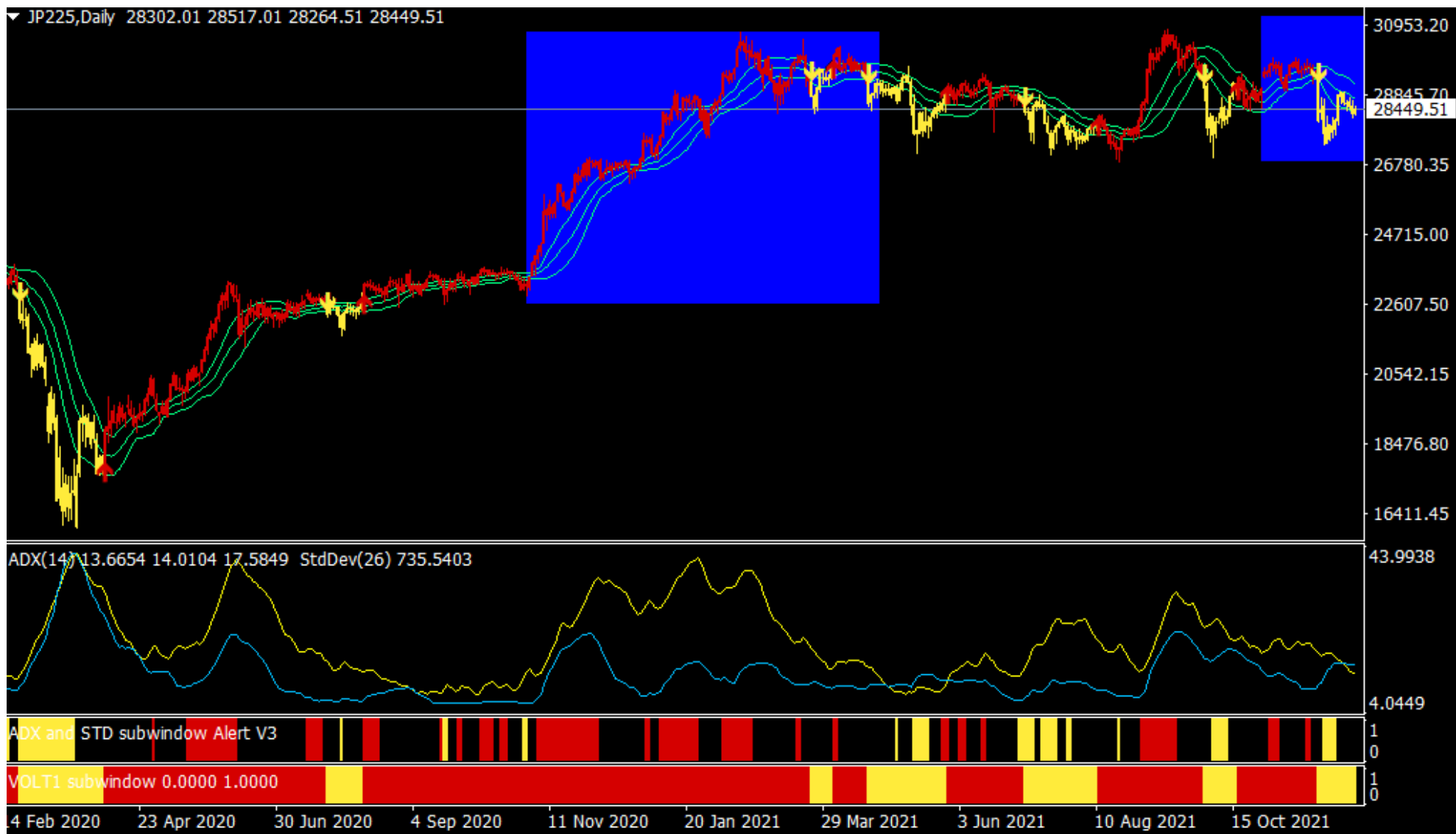
(赤↑ = 買いシグナル・黄↓ = 売りシグナル)
出所：楽天MT4・石原順インディケーター

S&P500CFD (日足)



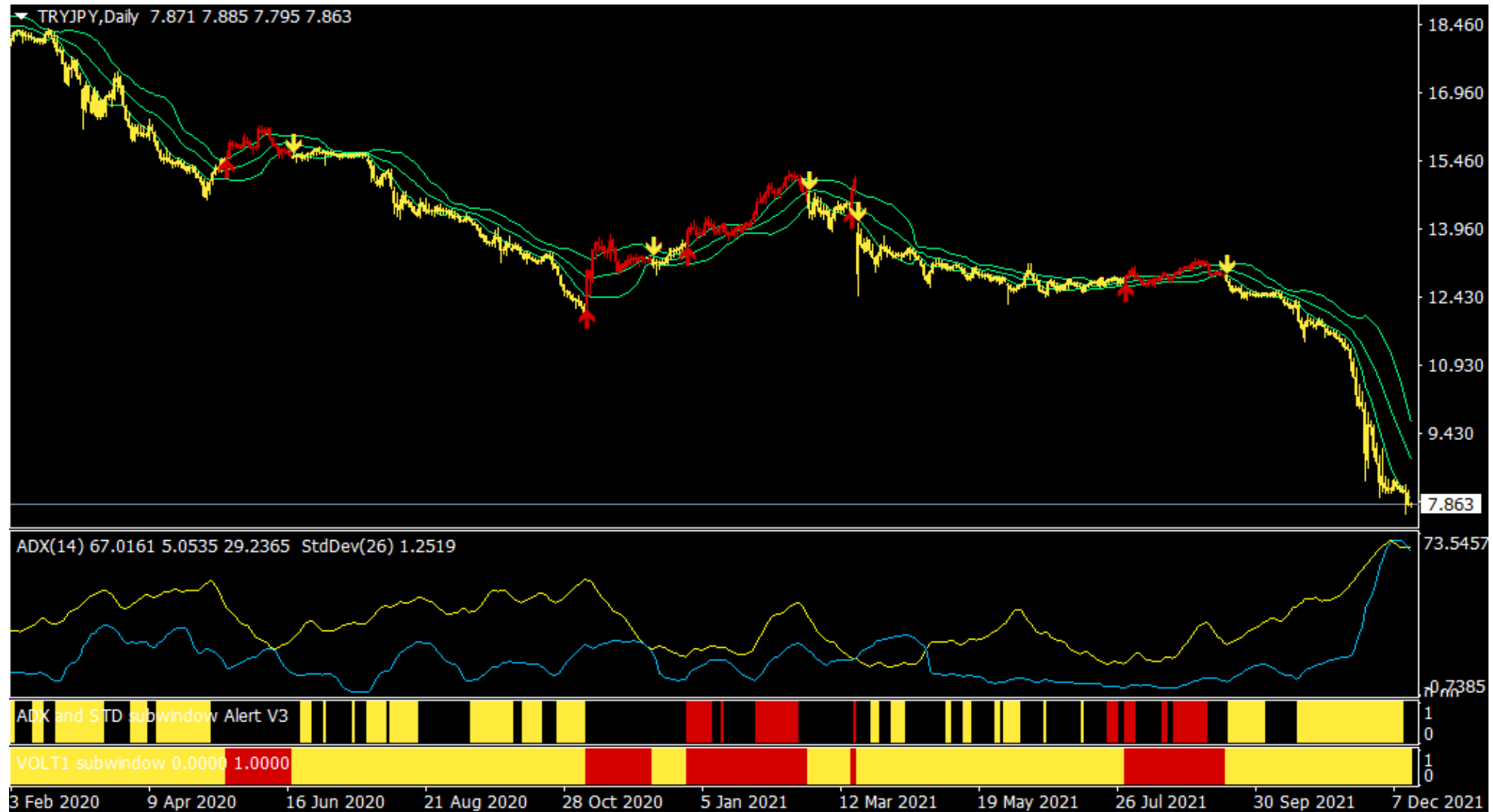
(赤↑ = 買いシグナル・黄↓ = 売りシグナル)
出所：楽天MT4・石原順インディケーター

日経平均CFD (日足)



(赤↑ = 買いシグナル・黄↓ = 売りシグナル)
出所：楽天MT4・石原順インディケーター

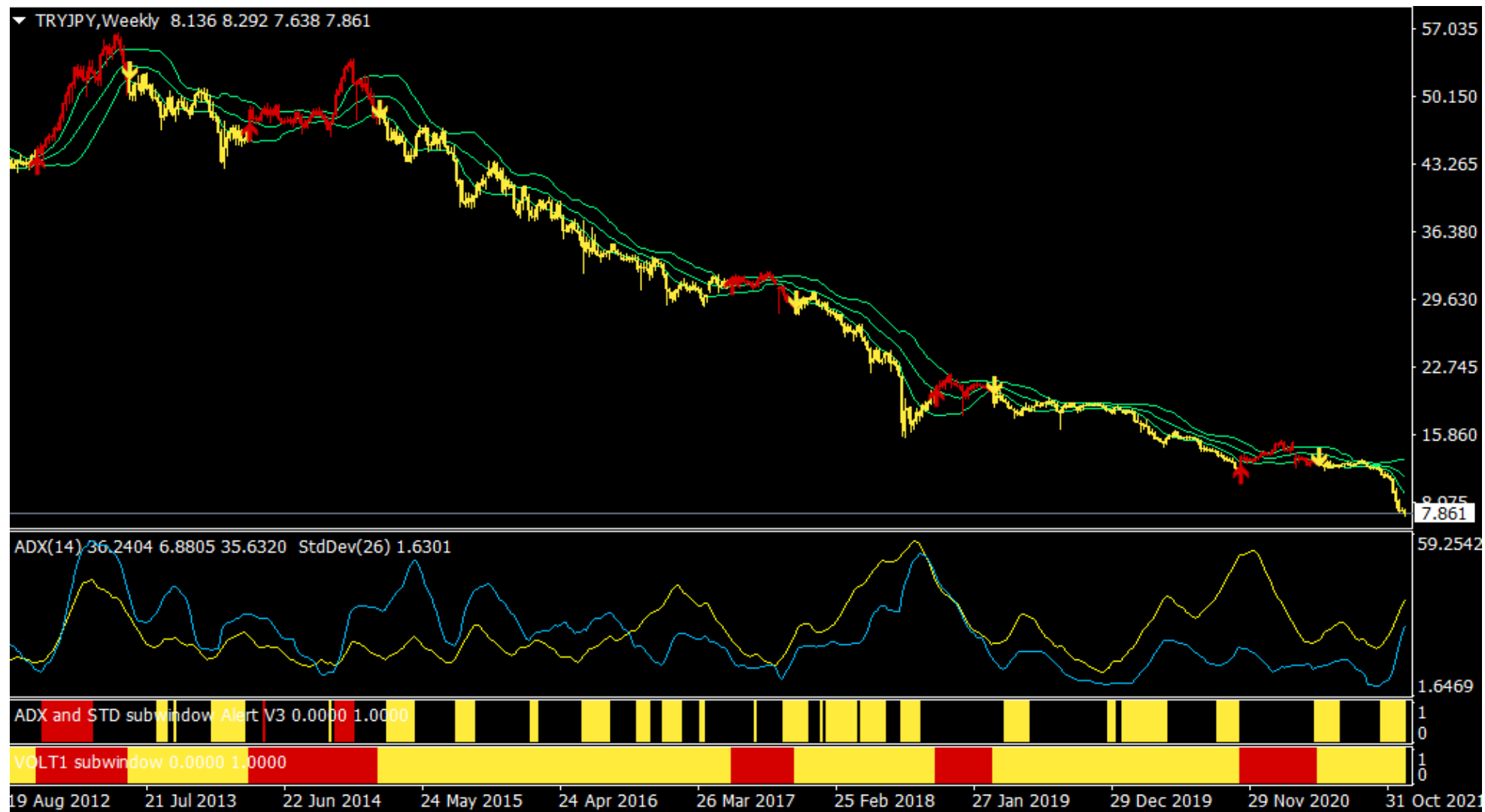
トルコリラ/円 (日足)



(赤↑ = 買いシグナル・黄↓ = 売りシグナル)

出所：楽天MT4・石原順インディケーター

トルコリラ/円 (週足)



(赤↑ = 買いシグナル・黄↓ = 売りシグナル)
出所：楽天MT4・石原順インディケーター

来年の相場の焦点！3月の利上げ観測も テーパリングと利上げ予想（ゴールドマンサックス）うまいくのか！？

Exhibit 3: We Now Expect Hikes in Three Hikes in 2022 vs. Our Previous Forecast of Two

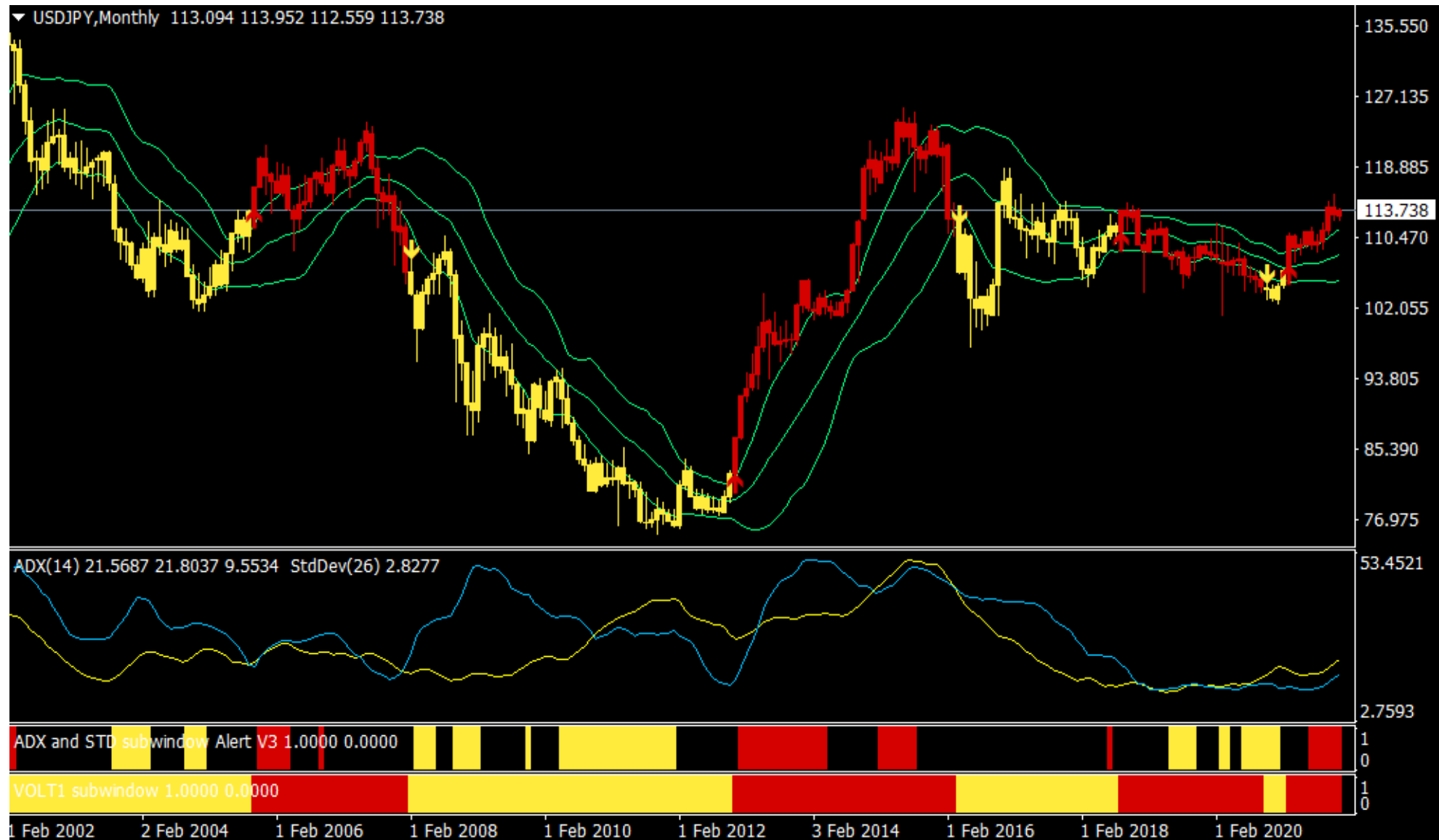


Source: Goldman Sachs Global Investment Research

出所：ゼロヘッジ

ゴールドマンは、3月のFOMC会合においてテーパリングによる経済への影響を評価し、利上げの議論をまもなく開始するとし、6月の利上げを前に5月の会合において利上げが間もなく行われることを示唆する可能性が高いと指摘した。ゴールドマンは現在、6月、9月、12月に合計3回（以前は7月と11月に2回）の利上げを予測しており、2023年からは年に2回の利上げになると見ている

ドル/円（月足）テーパリング失敗なら円高も・・・



(赤↑ = 買いシグナル・黄↓ = 売りシグナル)

出所：楽天MT4・石原順インディケーター



石原順 (西山孝四郎) @ishiharajun · 8時間

パウエル氏、「数カ月早い」テーパリング終了検討も - 高インフレで - Bloomberg

- 資産購入の早期終了を次回FOMCで議論するのは適切
- インフレについて「一過性」という表現をやめるときがきた



bloomberg.co.jp

パウエル議長、「数カ月早い」テーパリング終了検討も - インフレ高進で米連邦準備制度理事会 (FRB) のパウエル議長は資産購入のテーパリング (段階的縮小) について、これまでの想定より数カ月早い終了を...

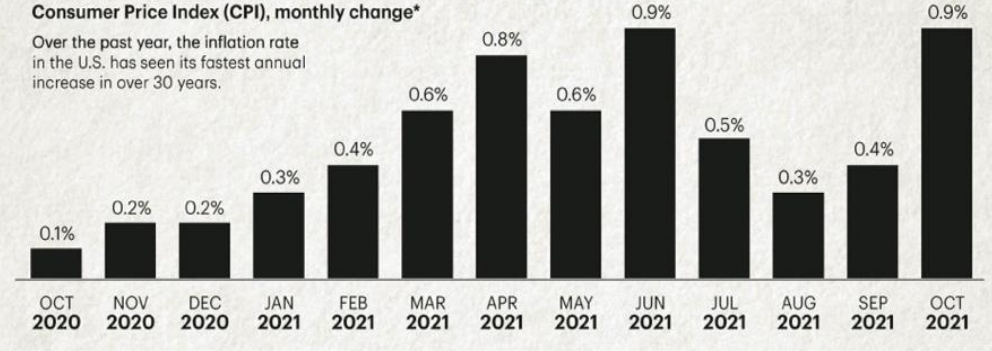


出所：ゼロヘッジ

U.S. INFLATION: WHICH CATEGORIES HAVE BEEN HIT THE HARDEST?

Consumer Price Index (CPI), monthly change*

Over the past year, the inflation rate in the U.S. has seen its fastest annual increase in over 30 years.



Selected CPI Subcategories, 12 month change



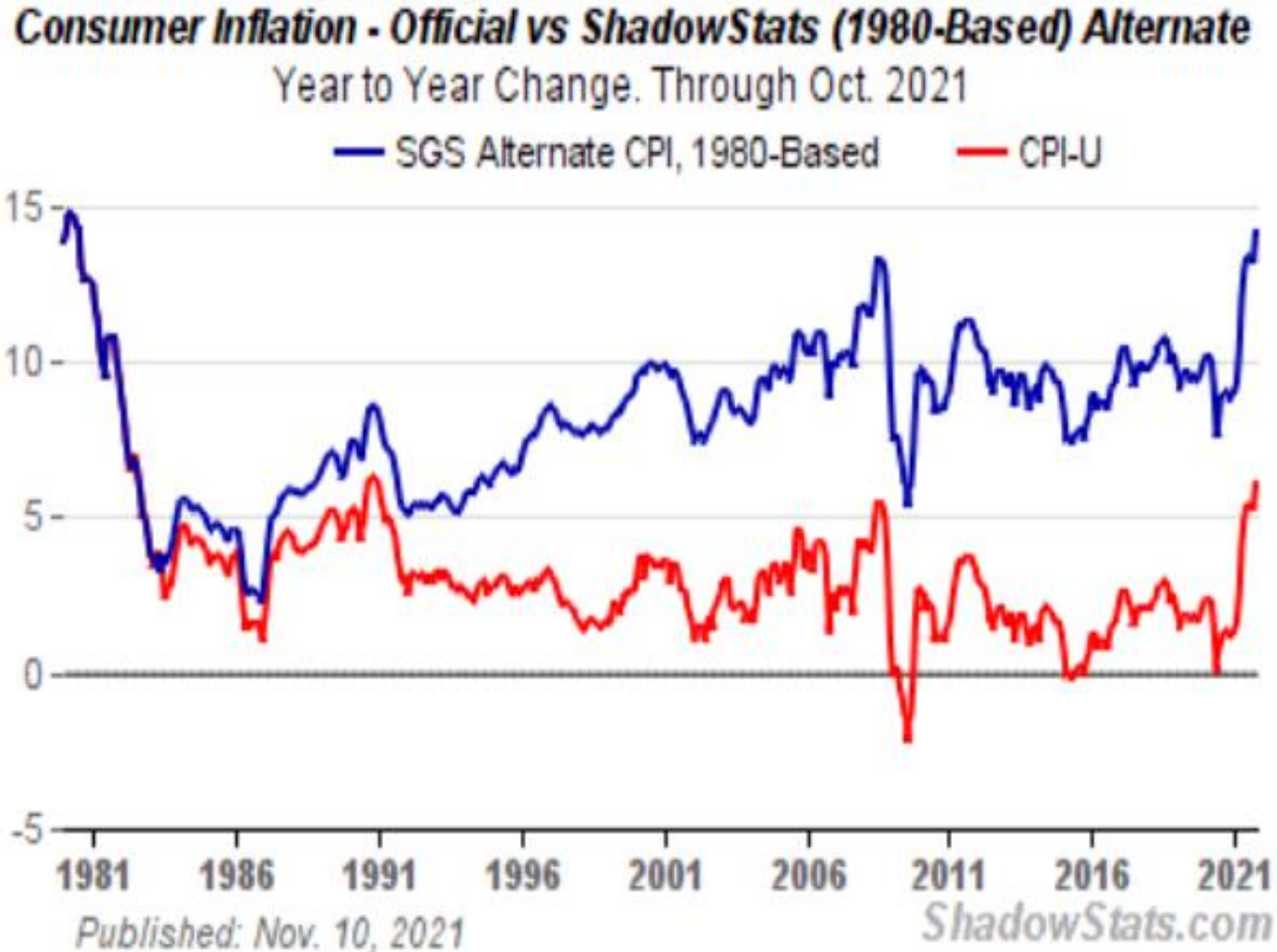
One-month percent change in CPI for All Urban Consumers (CPI-U), seasonally adjusted, as of November 10, 2021. Source: U.S. Bureau of Labor Statistics



出所：ビジュアル・キャピタリスト

FRBは何年も前からインフレについて嘘をついていた！？

制御不能のインフレになると困るので、とりあえず利上げ観測を流布・・・



例えば、1980年代にFRBがCPIインフレ率の測定に使用していた加重方法を現在も使用していたとしたら、米国のCPIインフレ率は報道されている6%ではなく、15%に近い値になっていただろう。

テーパリングは、正常な軌道に戻るふりをするためのパフォーマンス！？

正常な状態への道はない

2017年から2019年にかけてチャンスがあったのに、当時は全員がそれを利用できず、今、FRBは昨年からのバランスシートを再び2倍にしている。彼らは市場を吹き飛ばさずに、4.5兆ドルのバランスシートから自分たちを引き出すことができなかった。8.2兆ドルから9兆ドルになろうとしているバランスシートからは確実に引き出せないだろう。ゲームオーバーだ。二度とやるな！

では、将来はどうなるのか。FRBは資産価格をファンダメンタルズからさらに乖離させ続けるだろう。貧富の格差はさらに悪化するだろう。FRBが毎月400億ドルのMBSを購入することで、住宅市場から人々が追い出され続けるだろう。

これがFRBの使命なのか？これは社会をさらに根底から破壊する以外の何かを達成するのだろうか？資産バブルをますます大きくすることが、金融の安定をどのように促進するのか？不可解だ。

投資家は、利益が出続けている今はこれらの疑問を気にしないだろう。投資家がこれらの疑問を抱くのは、利益が出続けている今の時期ではなく、歪みの影響が明らかになった後である。その時にはもう手遅れかもしれない。

インフレを促進する緩い金融政策は衰えることなく続いている。

米国マーケットは前例のないQEによって支えられてきた

Quantitative Easing (QE) Driving U.S. Markets, Not Fundamentals



**FRBはこの異常な金融政策を
どうやって解消することができると考えているのだろうか？**

FRBはこの異常な金融政策をどうやって解消することができると考えているのだろうか？2008年以降、それができなかった。2008年以降はできなかったのに、今はどうやってできるのだろうか？

歴史的に見ても、金融政策の正常化に本格的に舵を切るとするのは幻想に過ぎない。

FRBは好きなだけ話をするができる。しかし、ことわざにもあるように、「口は災いの元」だ。中央銀行には何ができるのか？

出所：ゼロヘッジ「権力に酔う権威主義者たち：今こそ政府を再調整する時だ」

実際にバブルが発生しているのは債券市場

「実際にバブルが発生しているのは債券市場であり、それが破裂した場合には誰にとっても悪い事態をもたらす。どのような基準から見ても、実質長期金利はあまりにも低過ぎるため、持続不可能だ。こうした金利が上昇する場合、かなり急速に上昇する公算が大きい。われわれが経験しているのは株価ではなく債券相場のバブルであり、それは市場に織り込まれていない。真の問題は債券市場のバブルが崩壊したときに、長期金利が上昇する点だ。われわれは1970年代以降目にしたことのないスタグフレーションへと、違った経済局面に移行しつつあり、それは資産価格にとってよくないものだ。実質金利が上昇すれば、米株価を割安と捉える残り少ないバリュエーション手法の一つが試されることになり、特に株式は債券とともに打撃を受けることになる」

「グリーンSPAN氏が警告－株価ではなく債券バブルの破裂に用心を」 2017年8月1日 ブルームバーグ

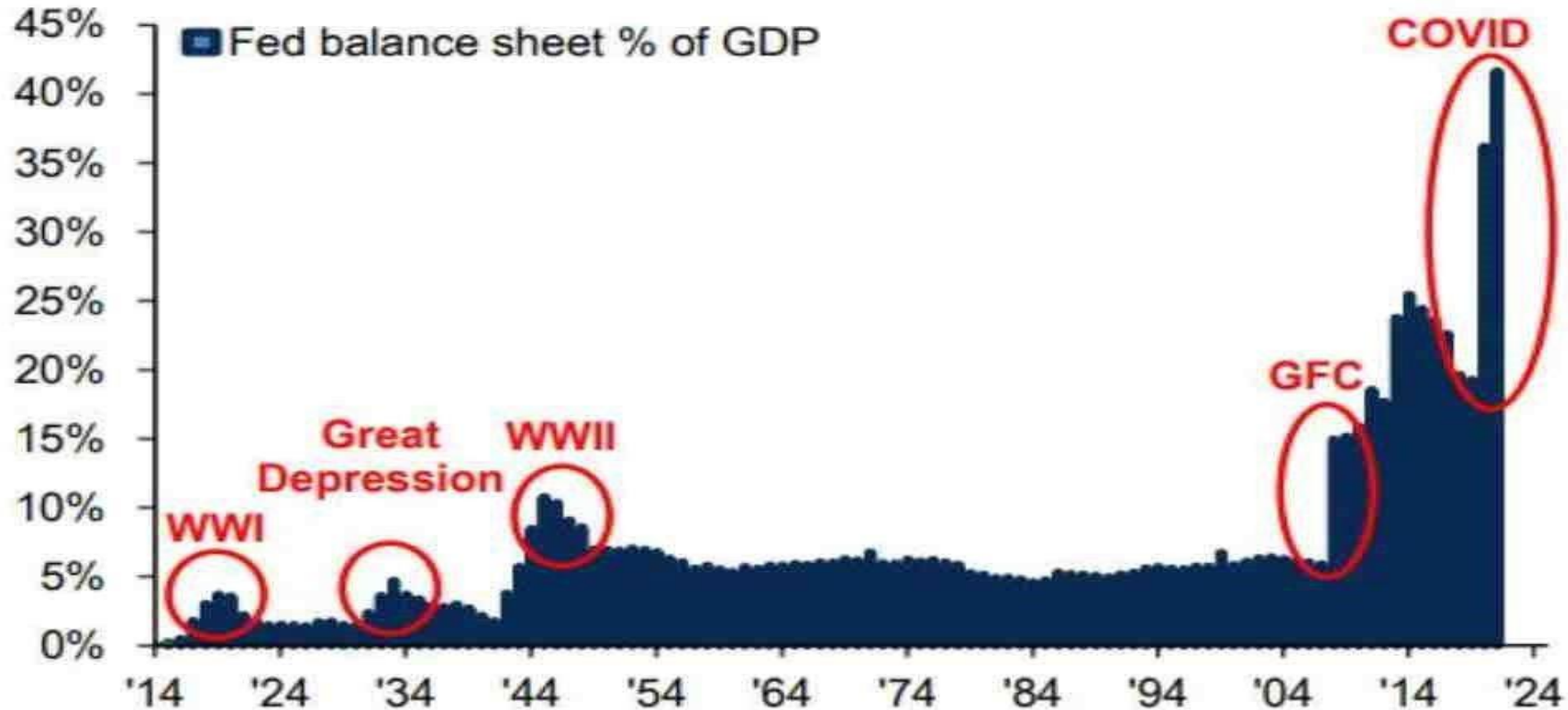
米10年国債金利（四半期足） **金融抑圧が続いている**



出所：筆者作成

FRBのバランスシートはGDPの42%の水準まで拡大 オミクロン騒動は原油下落の思惑と緩和余地の確保

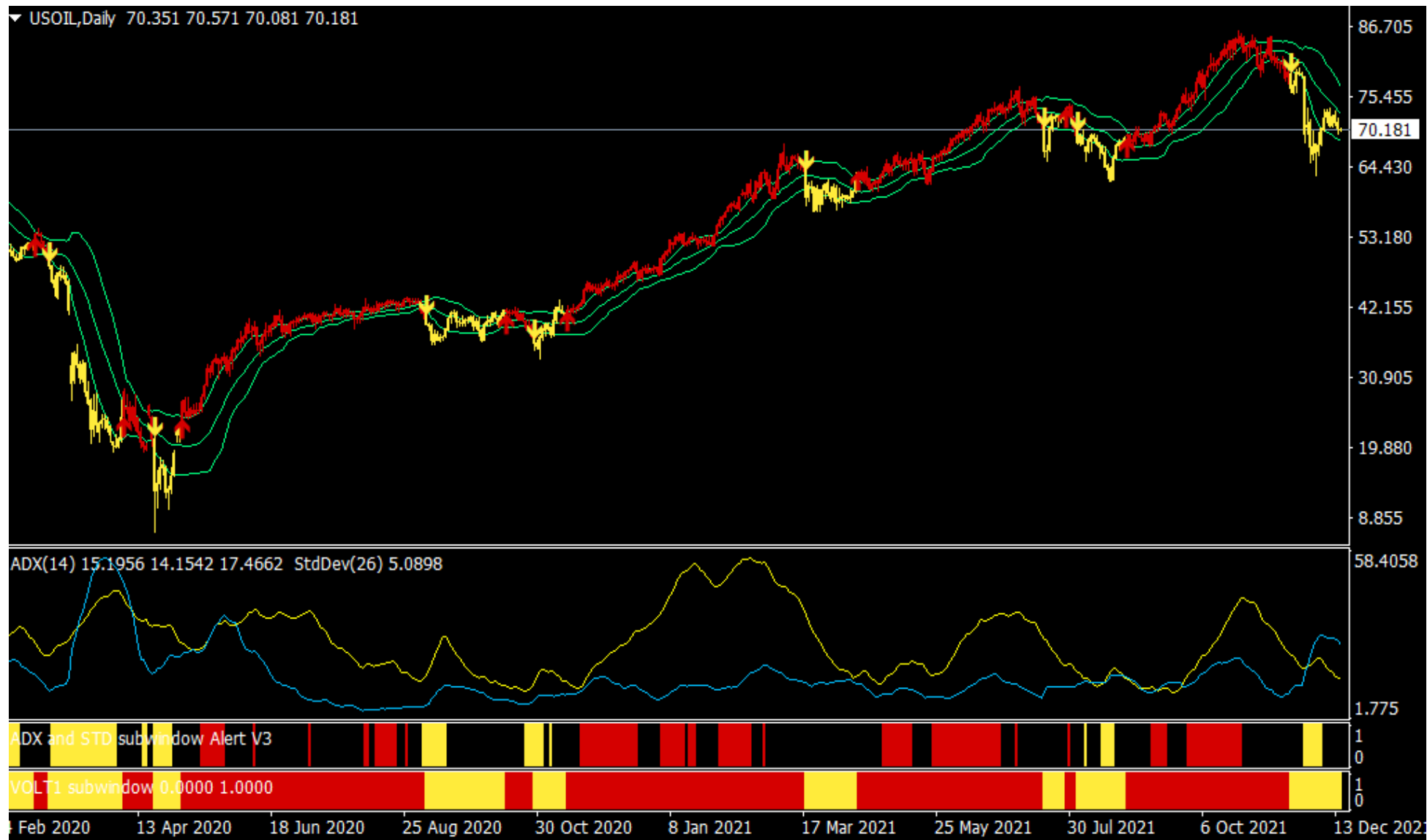
Chart 9: Fed balance sheet to hit 42% of GDP...



Source: BofA Global Research, GFD, Haver

出所：ゼロヘッジ

NY原油CFD (日足)



(赤↑ = 買いシグナル・黄↓ = 売りシグナル)
出所 : MT4

GDP（国内総生産）に対する米国の財政赤字の割合 **今、第三次世界大戦？**

Chart 7: Peak fiscal stimulus
U.S. budget deficit as % of GDP



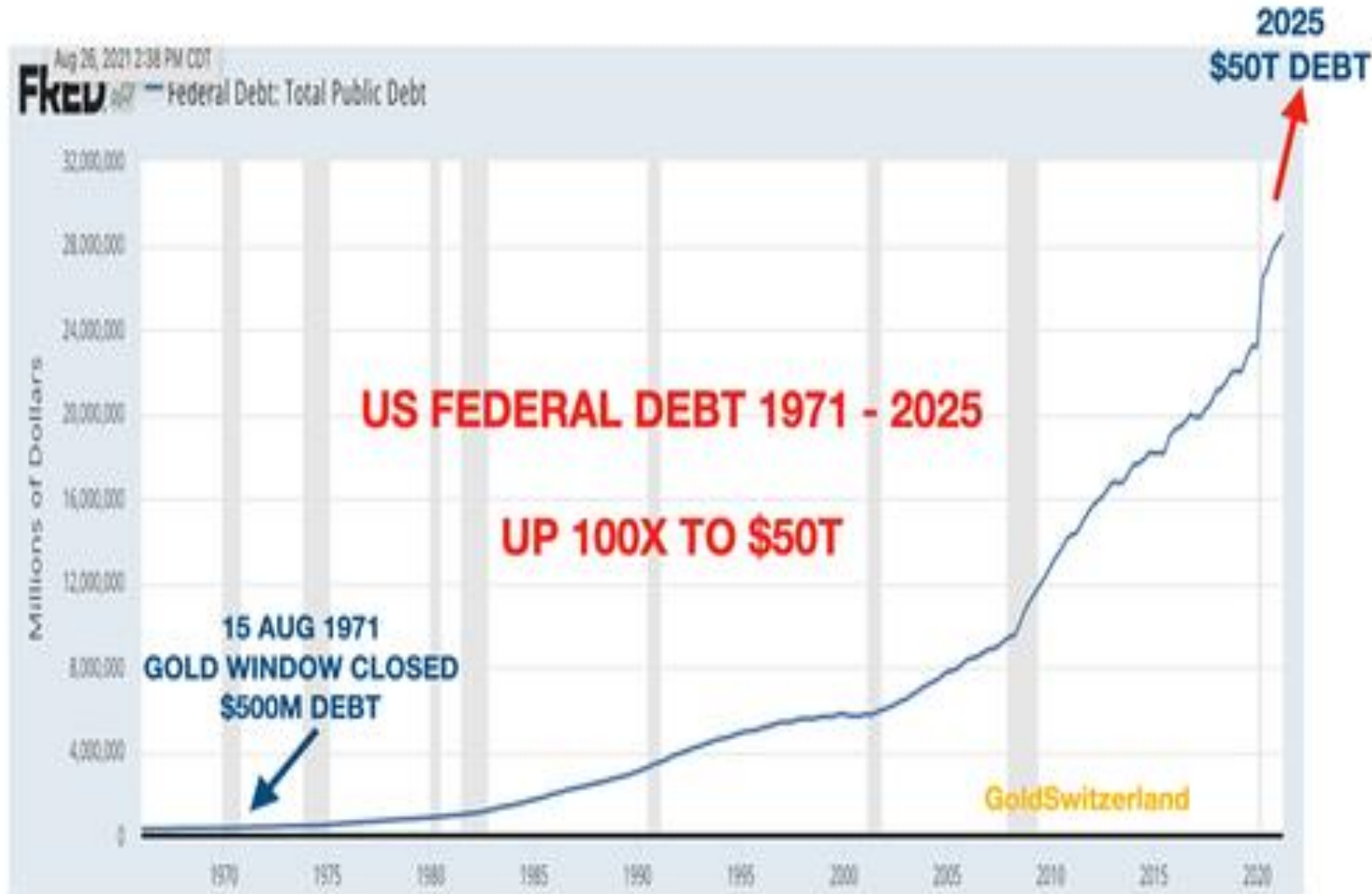
Source: BofA Global Investment Strategy, CBO, Haver

BofA GLOBAL RESEARCH

FRBが市場に全面的に介入し、膨大な量の負債が追加され、政治的な状況は巨大な混乱に陥っている。残っているのは、旧態依然としたカジノ化した市場にけん引された「仮想的な富の効果」だけだ。

資産と負債を際限なく膨らます「両建て経済」でカジノ化した市場の怖さは、「相場が急落すると資産は減るが、負債は減らない」ということだ。

米国の連邦債務（1971年～2025年（予測））



2025年には負債が1981年の50倍に膨れ上がるため、経済が減速、あるいは崩壊しても、税収はわずか35億ドルにとどまるだろう。その結果は明らかだ。FRBがコントロールを失うことで保証されている金利上昇時には、アメリカ帝国は金利を支払う余裕すらなく、デフォルト（債務不履行）に陥るだろう。

すべての帝国はこうして終わりを迎える。戦争だけでなく、お金の完全なコントロールも失う。

政府債務（債務対GDP比）の雪だるまの視覚化

公的債務の対GDP比の限界は250%程度と言われ、1940年代に英国が一度経験しているだけである。少子高齢化の日本は金利が上がると苦しい。

今、MMTが大流行だ。だが、働かないでもらうお金によって経済を回していれば、いずれ、大きなインフレを発生させるだろう。金融システムが破綻するまで国家管理相場は続く。

イージーマネーはイージーに失うことになっている。とどめを刺すのはインフレと財政破綻である。そこからは監視と弾圧が始まる。エリートたちは市民の不满を、補助金や配給によってなだめなければならない。これが今のフェーズである。しかし、それらが尽きれば、もはや不満分子を監視し、人々を弾圧するしかなくなる。

